

N U K U M O R I

ぬくもり

No.31
2013.5.1.発行



宇佐市院内町 香下ダム

基本理念

地域医療への貢献
「肌のぬくもりある医療」の実践

基本方針

- 一、 救急医療充実のため、診療連携の強化に努めます。
- 一、 高度医療の実施、チーム医療の推進に努めます。
- 一、 患者様の立場にたった医療サービスの提供に努めます。
- 一、 職員が働きやすく、誇りを持てる病院を目指します。

肌のぬくもりある医療



私達は笑顔を大切にします

宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL.0978-37-2300(代) FAX.0978-37-2307
<http://www.utihp.jp/>



CONTENTS

院長ご挨拶	2
医事統計総括表	2
MRI装置の更新について	3
ドクターのお話	4
部署だより	6
ご意見いただきました	6
行事のお知らせ	6
院外処方に関するお知らせ	7
新入職員紹介	7
外来担当医師一覧表	8

新年度にあたり



宇佐高田医師会病院
院長
柏木 孝仁

院長ご挨拶

寒かった冬も終わり、今年も例年よりも早い春の訪れを迎えています。世間でも政権交代のおかげか、徐々に明るい希望が芽生えているようです。

当院では、長年の懸案であった医師不足の解消に向けて、本年度より2名の常勤医の就職が決まりました。これにより呼吸器疾患の受け入れが可能になり、循環器内科の増員により心疾患の緊急対応も可能となりました。なにより常勤医が9名となったことで、夜間休日の緊急体制の人員配置を余裕を持つて組むことが出来るようになりました。宇佐高田地

域の救急医療の最後の砦として、これまで人手不足を理由に十分な対応がとれずご迷惑をお掛けしましたが、今後はかなり改善されると期待しています。

院外薬局も本年度から営業を開始致します。会計が二度手間になったり、ご負担が若干増えるなどのご迷惑をお掛け致しますが、きめ細かいサービスの向上を心掛けますのでご容赦の程、お願い致します。

医療崩壊と言われて久しく、最近ではマスクでもあまり目にしなくなりましたが、地方の医療環境は確実に悪化しています。医師不足、看護師不足は改善の兆しが見えませんが、それによる救急医療体制の悪化は日毎に強まっています。これもまた深刻な今そこにある危機です。

当院のような地域に根ざした病院のスタッフの充実は、小さな一歩ですが地域医療を守るためには大事な一歩であると信じています。

これからも「肌のぬくもりある医療」の実践を心掛け、スタッフ一同診療にあたりますので、ご支援の程お願い致します。



■ 医事統計総括表(12月～3月)

	12月		1月		2月		3月		
	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	23年度	24年度	
外来患者延べ人数(人)	1,603	1,620	1,532	1,543	1,542	1,437	1,626	1,593	
入院患者延べ人数(人)	2,545	2,202	2,717	2,519	2,754	2,077	2,816	2,265	
科別内訳	循環器	442	417	394	434	440	457	471	515
	消化器	667	616	1,012	823	961	730	624	781
	外科	804	1,169	780	1,262	777	890	979	969
	呼吸器	632		531		576		742	
1日平均入院患者数(人)	82.1	71	87.6	81.3	95	74.2	90.8	73.1	
平均在院日数(日)	14	15.2	17.4	14.2	16.5	14.6	15.8	13.8	
病床利用率(%)	75	65	80	74	86	68	83	66	
紹介患者数(人)	447	348	366	288	421	340	414	352	
患者紹介率(%)	52.4	55.6	63.5	62.5	55.8	62.3	57.5	59.6	
救急車搬入件数(件)	91	87	68	103	61	71	86	74	

MRI装置の更新について

平成25年2月にMRI装置を更新しました。

MRI（磁気共鳴画像）とは、磁場を利用して体内からの情報をコンピュータで処理し、画像にする検査です。MRIはX線を使用するCTとは違い、人体への影響はないといわれている検査です。しかし、CT検査に比べ検査時間が長く、またペースメーカーを使用している患者さんや体内に金属が埋め込まれている患者さんなどは、検査を受けられない事があります。当院では、それぞれの装置の特徴や患者さんの状態、疾患に合わせてMRI・CT検査を行っています。

今回導入した永久磁石方式オープンMRI装置の特徴は、まず他の装置と比べ撮影時の音が静かだということです。従来のMRI装置は、あまりの音の大きさを為耳栓を必要とすることがありますが、当院のMRI

装置ではほとんど必要ありません。また、左右に大きく開いた開口部の為あまり圧迫感を感じることがなく、閉所が苦手な方でも比較的楽に検査が受けられます。

当院での主な使用は、まず併設の検診センターから委託されている“脳ドック”検査です。この検査は、早期脳梗塞や脳動脈の奇形などを発見することが出来ます。脳の疾患に関しては例外もありますが、CT検査よりもMRI検査の方が有用だとされています。

また、乳房、腹部領域の精査も行えるようになりました。

この他にも、地域の先生方からの紹介を受けて、婦人科・整形外科領域の検査も行っています。基本的にMRIの検査は、検査着を着たまま寝ているだけで画像診断が出来ますので、“症状はないけれど婦人科疾患が気に

なる”という方に特にお勧めの検査です。

人体に影響がないとされているMRI検査は、検診に最適な装置です。特に症状はないけれど気になるところがあるという方は、当院併設の検診センター、または主治医にご相談下さい。検査内容で解らないことがあれば、放射線科までお気軽にお問い合わせ下さい。

文責 放射線科課長代理 加藤 瑞絵



呼吸器内科部長
望月 淳

高齢者肺炎について

平成25年4月1日に着任しました呼吸器内科部長の望月です。宜しくお願いします。専門領域は、呼吸器内科、老年科です。

今回は、高齢者肺炎についてお話ししたいと思います。永らく日本人の死因の三大原因は①癌 ②心筋梗塞 ③脳卒中でしたが、H23年度から3位は脳卒中から肺炎となりました。特に65才以上の高齢者では死因の第1位です。H23年の全死亡者に占める割合は9・9%となっています。この統計はいわゆる死亡診断書を基に出されたものですが、東京都老人医療センターの2000年前後の剖検例約1000例での検討では、肺炎が直接死因となった割合は、男性30・8%、女性17・1%です。種々の疾患で入院しても、最終的な死因が肺炎であることがうかがえます。65才以上の方の場合、肺炎を合併する可能性があるということです。発熱、咳、痰等の呼吸器症状を呈し、白血球や炎症反応の上昇を示し、胸部レントゲン画像で、浸潤影を認めれば肺炎です。

肺炎の臨床病型

高齢者の肺炎を宿主条件や起炎菌等から分類すると以下の4つが挙げられます。

- ①平素元気な方の肺炎
- ②慢性的な肺の疾患を有する方の肺炎

③認知症や脳卒中の既往のある方の誤嚥性肺炎

④進行癌などの方に合併する肺炎

患者さん一人ひとりの既往症、摂食状態、ADL（日常生活での自立度）、認知機能、現在の治療中の疾患、生活歴、職歴、家族状況などを合わせて考え、診断や治療方針を決定していきます。

肺炎または肺炎が疑われる患者さんについて

まず咳に痰を伴うものか、痰はどのような性状を観察することは大事です。肺炎に限らず、感染症の診断は病原菌の種類を確定することになります。

抗生剤を投与する前に、痰の検査を行うことが望まれます。特に1年以内に抗生剤の投与を受けた方、療養型病院に入院されている方、介護施設に入所されている方は、MRSA（メシリン耐性黄色ブドウ球菌）などの種々の抗生物質が効かなくなった菌がすでに体内にあるものの、病気として現れていない状態（菌の保菌者）の可能性が高いと思われます。検査のための痰が出にくい場合は、吸入（霧状の水を吸う）をすることによって痰が採り易くなります。

肺炎の重症度について

肺炎の重症度評価にはいろいろありますが、ここでは院内肺炎の「IRRO AD」について解説します。「IRRO AD」は以下の5項目の頭文字を取ったものです。

① I : Immunodeficiency : 免疫不全状態、悪性腫瘍

癌の治療中、ステロイド・免疫抑制剤など服用中、また食事の摂取が不安定でやせている方、殆ど寝たきりで筋肉の減少がみられる方などは肺炎が重くなりやすいといえます。

② R : Respiration : 呼吸状態の悪化
病院では、必要とされる酸素吸入量により呼吸状態を評価しますが、ご家庭では顔色や手足の先、唇の色が悪いことにより、いつもと様子が違う（具合が悪い）と気づくようです。

③ O : Orientation : 見当識、意識状態の低下
ここがどこなのか、今日は何曜日なのか、ご家族の名前は言えるのか等の問いに対し、昨日は言えたのに今日は言えない場合は速やかに病院を受診することをお勧めします。

④ A : Age : 年齢

男性70才以上、女性75才以上。このような方は肺炎が初期の段階で見つけにくく重症化しやすいようです。早めの病院受診を心掛けましょう。

⑤ D : Dehydration : 脱水

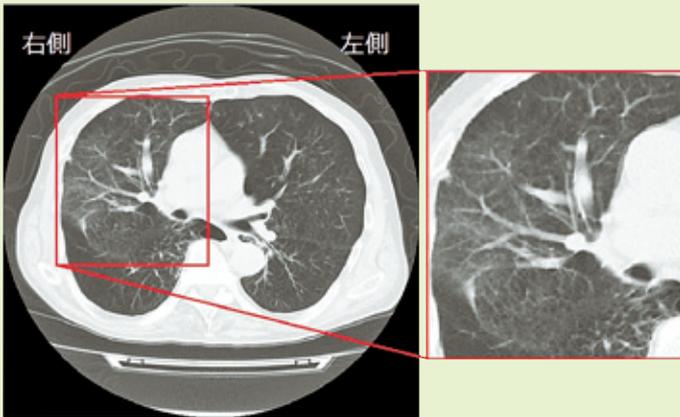
脱水の判断は意外に難しいですが以下の項目が判断材料となり、その内3項目を満たすものを重症とします。2項目以下のもは軽症もしくは中等症とします。

- ・尿量が少ない
- ・濃い尿がでている
- ・腋の下が乾いている（腋窩にティッシュペーパーを入れて湿りが認められるか）
- ・体重の減少等（1週間で2 kg以上の体重の増減）

※脱水の診断には血液検査も有用です。

全国多施設共同研究による死亡率の報告では、重症例では40・8%、中等症では24・9%、軽症は12・1%とされています。中等症、重症の可能性のある患者さんの場合それだけ迅速な対応が必要と思われます。

肺炎やその他呼吸器疾患について、お悩みやご不明な点がございましたら、お気軽にご相談下さい。



病名：細菌性肺炎

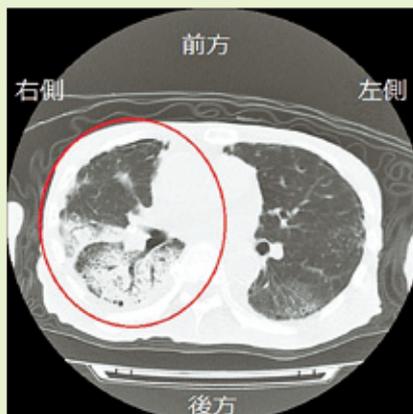
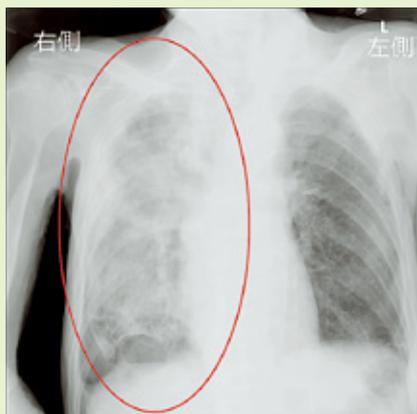
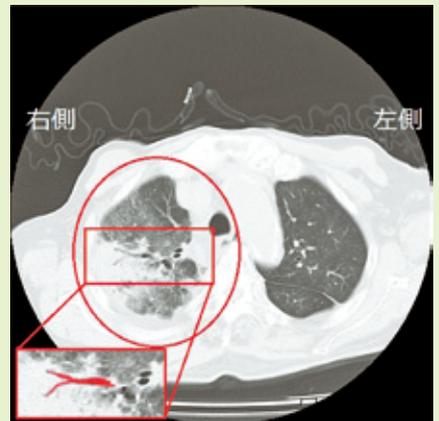
肺野全体に気腫性変化*1などがあり、COPD（慢性閉塞性肺疾患）*2と診断された患者さんです。COPDに加え、この方は右肺に淡く白い影があります。細菌性の肺炎とされます。COPDなどの慢性の肺疾患がある方は、他の要因で呼吸状態の悪化を招きやすいです。

- *1 気腫性変化:左図で真っ黒く抜けている部分 (□)
- *2 COPD: タバコの煙を主とする有害物質を長期間に吸入することで生じる肺疾患です。



病名：細菌性肺炎

右肺に内部が均一でない白い影が広がっています (○)。その中には黒い気管支があり (□)、典型的な細菌性肺炎の所見です。



病名：誤嚥性肺炎

右肺の背中側に炎症性変化があります (○)。左肺に比べ白く変化している部分です。片方の肺の1/2以上を占めており、重症とされます。



部署だより ⑨
手術室

当手術室は、看護師7人で手術室・心臓カテーテル室・中央材料室の3つの部門を担当し、また、夜間・休日オンコール制をとることで、緊急手術や緊急カテーテルにも24時間対応しています。

日々の業務の煩雑さに、時には解放されたい気分になります。患者さんより、「ありがとうございます」「ごさいます」等の感謝の言葉を頂くと、いつの間にか辛いことも忘れてしまいます。

手術及び心臓カテーテル治療は、高度で専門的なチーム医療が必要とされています。劇的に変化する治療現場



手術室看護課長
岡崎 豊子

に、私たち看護師もチーム医療の一員としての役割を大いに発揮していきたいと思えます。

手術や心臓カテーテルについて、ご不明な点がございましたら、遠慮なく声をおかけください。

ご意見いただきました

ご意見ありがとうございました。
文責 院長 柏木 孝仁

▼ご意見

図書室に糖尿病患者向けの料理の本があると嬉しいです。図書室にパソコンのある病院は初めてで、入院生活が気持ちよく過ごせそうです。

▼お答え

貴重なご意見をありがとうございました。栄養課の協力により、料理の本を数冊設置いたしました。本もパソコンも9時～17時の間ご利用いただけます。17時以降に利用される際は、職員にお声かけください。これからもご満足いただけるより良い環境づくりに努めてまいります。

*ご意見は、要約して掲載させていただいております。ご了承下さい。



看護の日と看護週間



現代の少子・高齢社会を支えていくためには、看護の心・助け合いの心を一人ひとりが分かち合うことが必要です。

こうした心が育つきっかけとなるよう、1990年に厚生労働省により近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなみ、5月12日に「看護の日」が制定されました。(日本看護協会ホームページより)

そして、その5月12日を含む日曜日から土曜日までの1週間を「看護週間」として各地で看護に対する意識向上を図る啓発事業が行われています。

当院では、右記の日程で催し物を行います。是非皆さんご参加ください。なお、先着でささやかなプレゼントも用意しております。

行事のお知らせ

期日：5月15日(水)
時間：8:30～12:00
場所：1階フロア

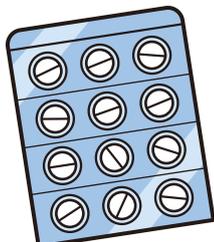
内容：身体測定(BMI測定)、血圧測定、AEDの取り扱い、栄養相談、薬事相談

三宅孝治ご夫妻によるバイオリンとピアノのミニコンサート
(11:00～12:00)



院外処方に関するお知らせ

4月よりお薬の受け取り方法が変わりました！
ご理解、ご協力をお願い申し上げます。



これまで外来患者さんのお薬は院内の薬局窓口
でお渡ししていましたが、平成25年4月より
院外の保険薬局で受け取って頂くことになりま
した。



宇佐高田医師会病院

診断
検査
処方



保険薬局

お薬



新入職員 紹介

よろしくお願いいたします。

- ①入職日 ②所属
- ③モットー (一言)
- ④趣味



もちつき あつし
望月 淳

- ①H25・4・1
- ②呼吸器内科部長
- ③プロとして恥ずかしくない知識をもち、患者さん・御家族に優しく対応する。
- ④将棋



いとう ひろたか
伊藤 博高

- ①H25・4・1
- ②循環器科副部長
- ③人間気合いです!!
- ④釣り



はやし あきふみ
林 晃史

- ①H25・4・1
- ②外科医師
- ③7年ぶりの勤務になります。よろしくお願いいたします。
- ④ゴルフ



はやし なつみ
林 奈津美

- ①H25・4・1
- ②4階病棟看護師
- ③ひとつひとつを丁寧にしていく。
- ④読書、映画



うえやま みほ
植山 美穂

- ①H25・4・1
- ②4階病棟看護師
- ③心配りの出来るナースを目指しています。笑顔でがんばります!!
- ④愛犬とじゃれ合うこと



やまだ かよ
山田 佳世

- ①H25・4・1
- ②4階病棟看護師
- ③いつも笑顔で責任感ある看護師を目指して頑張ります。
- ④子どもと公園で遊ぶこと



かわばた なつこ
河端奈津子

- ①H25・4・1
- ②3階病棟看護師
- ③初めての病院勤務なので、不安もたくさんありますが、笑顔を忘れずに頑張ります。
- ④音楽鑑賞、買い物

外来担当医師一覽表

時間帯	科別	月	火	水	木	金	土
午前	循環器	陣林	篠原	齋藤 陣林(バースムーカ)	伊藤	陣林	—
	外科	林	柏木	山方	萱島	柏木	—
	消化器	井上(邦)	中島	岡本	中島	井上(邦)	中島(再来)
	内視鏡	岡本	井上(邦)	井上(邦)	岡本	岡本	—
	呼吸器	—	望月	※下記参照	望月	—	—
午後	循環器	—	—	—	近藤 (心カテ検査)	—	—
	肝臓内科	—	大森(第1・第3)	—	—	—	—
	腎臓内科	—	—	—	—	有馬(第1・第3)	—
	血液内科	—	—	—	—	中山(第2・第4)	—

氏名	専門領域
陣林 伯男	循環器 内科一般
伊藤 博高	循環器科一般
近藤 克洋(非常勤)	循環器科一般
篠原 徹二(非常勤)	循環器 内科一般
齋藤聖多郎(非常勤)	循環器 内科一般
井上 邦光	消化器 肝臓病 内科一般
岡本 和久	消化器 肝臓病 内科一般
中島 仁典(非常勤)	消化器 肝臓病 内科一般
有馬 誠(非常勤)	腎臓内科一般
中山 俊之(非常勤)	血液内科 内科一般
大森 薫(非常勤)	肝臓内科一般

氏名	専門領域
柏木 孝仁	消化器外科 下肢静脈瘤 外科一般
山方 伸茂	消化器外科 外科一般
林 晃史	消化器外科 外科一般
萱島 理	消化器外科 外科一般
望月 淳	呼吸器内科 老年科
※井上 聡一(非常勤)	呼吸器科一般 第1・第3水曜
※大津 達也(非常勤)	呼吸器科一般 第2水曜
※吉松 哲之(非常勤)	呼吸器科一般 第4水曜
※杉崎 勝教(非常勤)	呼吸器科・アレルギー科 第5水曜

●外来受付時間

午前8:30~11:00(午後の特殊外来は、午後3:00まで受付)
予約の患者様が優先になります。ただし、急患はこの限りでは
ありません。

※当病院は、原則として紹介状が必要です。

●診療時間

午前9:00~12:00/午後1:00~4:00(肝臓内科・腎臓内科)
午後2:00~5:00(血液内科)

●休診日

土曜日午後、日曜日、祝祭日、年末年始(12/30~1/3)

編集後記

当院の病室から見える山々の風景は、とても素晴らしいです。春には、若葉が萌黄色から濃い緑色に変化します。秋には赤や黄色に染まり私達の目を楽しませてくれます。冬には雪が舞い、とても美しい世界が広がります。自然の力は素晴らしいと、病室から外を眺めながら思う今日この頃です。

新年度を迎え気持ちも新たに、皆様によりよい情報をお届けできるよう努力してまいります。宜しくお願い致します。
広報委員

ぬくもり No.31 2013年5月1日発行

宇佐高田医師会病院

〒872-0102 大分県宇佐市大字南宇佐635
TEL 0978-37-2300(代) FAX 0978-37-2307

ホームページ <http://www.utihp.jp/>

これまでの広報誌「ぬくもり」もホームページで閲覧できます。



- 地域医療支援病院
- (財)日本医療機能評価機構認定(Ver.5.0)
- 第2次救急指定医療機関・災害拠点病院(大分DMAT指定病院)
- 僻地医療拠点病院・大分県HIV診療協力病院
- 第2種感染症指定医療機関(SARS初療機関)
- 大分県重症難病患者医療ネットワーク基幹協力病院
- 協力型臨床研修病院・循環器専門医研修関連施設
- 日本がん治療認定医療機関認定研修施設
- 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設
- 日本消化器病学会専門医研修関連施設
- 肝疾患診療協力医療機関
- マンモグラフィー画像認定施設
- NST稼働施設認定病院